

産学連携／共同研究事例

安全文化診断を活用した組織変革

AGC

企業

AGC株式会社(東京都千代田区)

<主要事業>

建築材料・自動車向けなどのガラス、
電子部材やその他の化学関連素材の
製造・販売



新潟大学



自然科学系(工学部)

准教授 東瀬 朗

<研究テーマと専門分野>

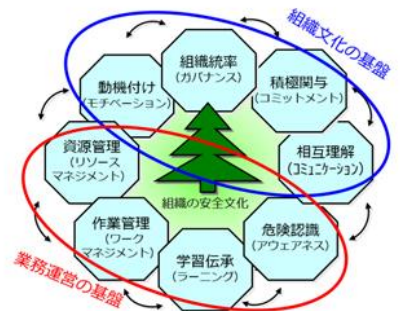
安全文化診断を活用した企業の安全管理可視化と改善
安全工学・安全管理・経営管理・システム工学 等

■企業の新たな取り組み

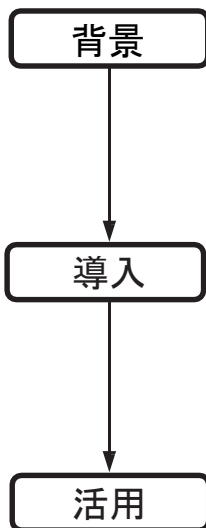
安全文化診断を活用した全社的な安全管理改善

安全衛生の全社プロジェクト(グローバル展開)の一環として、保安防災水準の向上を掲げているAGCでは、保安防災に関する組織の網羅的な課題把握のため、新潟大学が提供する安全文化診断を日本・アジアの主要拠点で導入。全社横断的な課題及び拠点特有の課題の可視化と診断に基づく改善に取り組んでいる。

【安全文化の8軸モデル】



■大学の研究シーズが社会実装されるまでのプロセス



新潟大学では「企業の製造現場における事故防止は、個人の努力だけではなく、それが発生しにくい仕組みと組織の確立が必須」との考えから、安全文化診断手法及び診断を活用した組織改善の研究を行っていた。
また、AGCは第三者と協働した安全に関する評価を模索する中で、東瀬准教授の研究手法に着目した。

2020年6月に共同研究契約を締結し、日本・アジアを中心に国内約20拠点、海外約30拠点(30,000人超)を対象に診断を順次展開。また、海外展開のため設問の現地語化をAGCと新潟大学共同で実施し、従来大学が提供していた日本語版・英語版に加え中国語版(簡体字・繁体字)・韓国語版・タイ語版・インドネシア語版・ベトナム語版を作成した。

安全文化診断結果を踏まえて、次のような取り組みが始まった。

- ・カンパニー(事業部門)トップを中心に、安全に関わる組織の強化・人材育成・生産技術部門と環境安全部門の計画的な人材交流の実施などの対策を導入。
- ・大学院生をAGC社内に受け入れ、AGC環境安全品質本部メンバーとともに診断結果のさらなる活用と応用に関するデータ分析と研究を共同で実施し、企業・大学双方の人材高度化を推進。

■企業からの声

安全文化診断プロジェクトの導入をきっかけに、自社の現状が可視化され、経営トップが取り組むべき課題が明確となった。また、このプロジェクトを通して、社内の各拠点が安全管理の改善で交流するきっかけが増え、全体的なレベルアップにつながっている。

■教員からの声

企業と大学が現場の課題に対してデータを基に共同して取り組むことで、安全管理分野における高度な人材育成を行うとともに、診断手法を企業内でより活用する方法を共に開発できている。

■今後の発展

他社を含めた多数の実データを基に、現場の改善につながる情報をより分かりやすく提示するための手法を研究するとともに、診断結果から見えてきたニーズに応え、現場の改善を手助けするための各種ツール類の開発に取り組んでいく。

本技術の問い合わせ先 **新潟大学 社会連携推進機構**

TEL:025-262-7554 FAX:025-262-7513 E-mail : onestop@adm.niigata-u.ac.jp